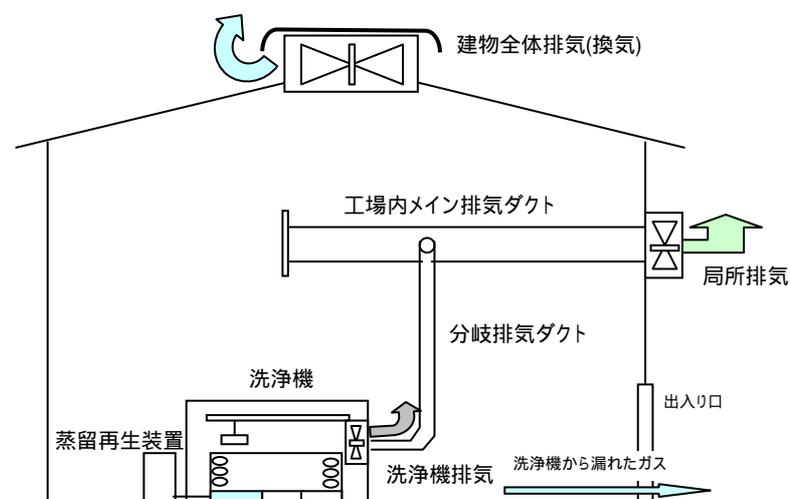


4. VOCの排出の形態

調査データなし

一般的な工場排出形態

個別排出: 作業環境改善
 集中排気: 作業環境改善・・・他の加工機ミストも集めて排気
 建物排出(換気): 作業環境改善



5. VOCの排出の排出する施設(洗浄機)からのVOC排出実態

調査データなし

各企業への調査は企業全体での「使用量、大気排出量」であるため

6. VOC排出量と関係があり裾切の外形基準と考えられる指標

調査データなし

各企業への調査は企業全体での「使用量、大気排出量」であるため

- 7. VOCの抑制対策と抑制効果
- 8. VOCの抑制対策に要するイニシャルコスト、ランニングコスト

「業会自主改善事例」

洗浄工程 有害大気汚染物質転換事例回答用紙

貴社名： _____

有害大気汚染物質：洗浄工程で使用する有機塩素系化合物を対象とする。
(ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)

比較項目	転換前	転換後 (代替 抑制)
洗浄剤	ジクロロメタン トリクロロエチレン テトラクロロエチレン	←
洗浄剤使用量	150t/年 (98年)	100t/年 (99年)
被洗浄物	名称	シリンダーブロック他
	材質	ADC-12
	形状	異形多穴
洗浄仕様	洗浄前汚れ	水溶性切削油・切粉
	洗浄後清浄度	切削油分・切粉残り無きこと
洗浄方式	超音波洗浄	←
乾燥方式	自然乾燥	←
経済評価	イニシャルコスト	20,000,000円/2台
	ランニングコスト	

抑制システム概要

回収量 約200kg/日

転換前後での濃度測定値を記載願います

排出口濃度の分布状況： _____

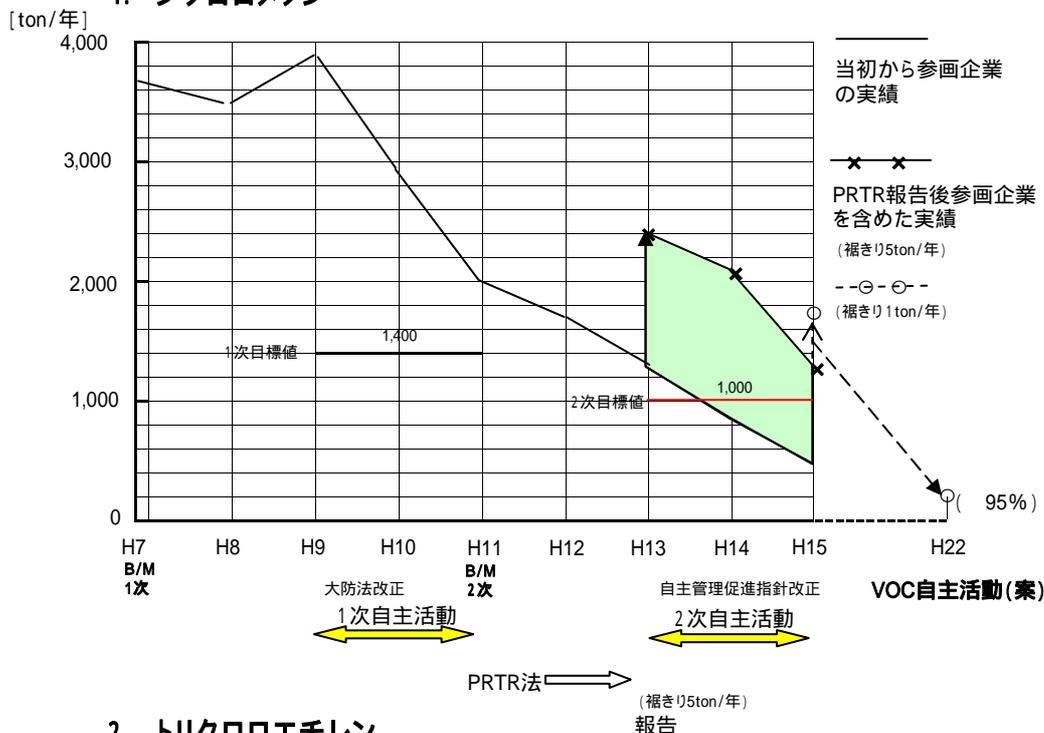
敷地境界線濃度の分布状況： _____

9. VOC排出抑制に係る自主的取り組みの状況

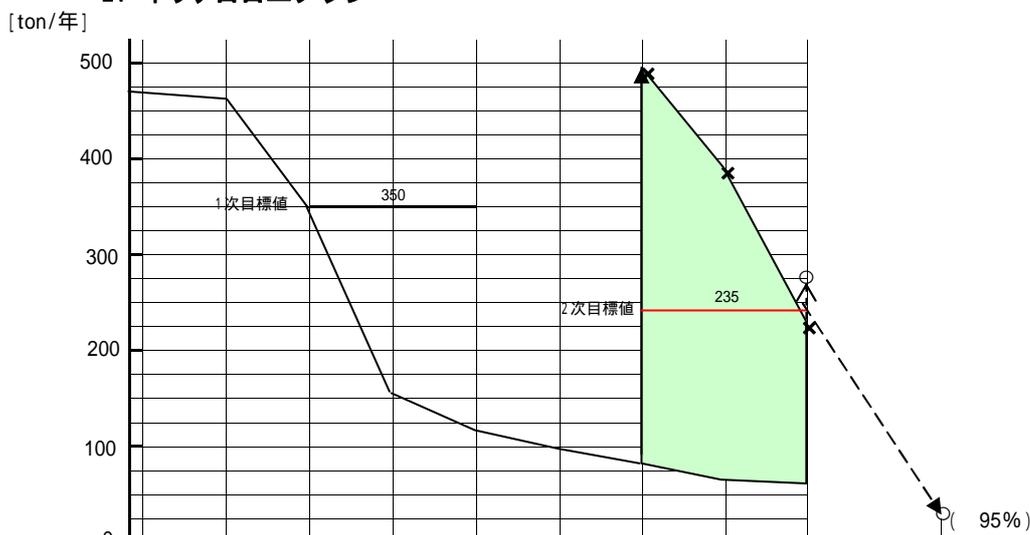
- ・H8大防法改正を契機にH9に業会として「有害大気汚染物質の自主管理計画」を策定し活動中。
- ・対象物質は特に使用量の多い3物質とした。
- ・自主活動対象物質は本小委員会のVOC課題と合致している。
- ・自主活動の結果は「産構審化学・パイオ部会リスク管理小委員会」にて毎年チェック&レビューを受けている。

物質によって一部目標未達はあるが、
確実に削減されている。

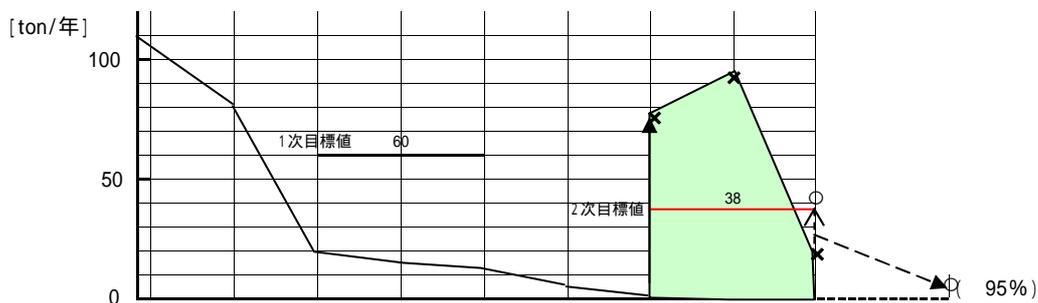
1. ジクロロメタン



2. トリクロロエチレン



3. テトラクロロエチレン



「業会自主調査」

発信先 (社)日本自動車部品工業会 技術部 行 FAX: (03) 3447-5372 Tel: (03) 3445-4211 送付枚数 (このページを含む): 枚	FAX送付ご案内	平成16年 月 日 発信元 貴社名: _____ 所属・役職: _____ 御回答者: _____ Tel: _____ Fax: _____
---	----------	---

JAPIA 有害大気汚染物質排出抑制アンケート調査回答用紙

*使用経歴
○: 使用中 H16, 17の計画予定数量も必ずご記入下さい。
△: 以前使用していた
×: 使用したことがない

1. 有機塩素系溶剤の使用実績と計画(会社全体として) [トン/年]

自主管理対象物質	*使用 経歴	H15 (H15. 4~H16. 3実績)		* H16		* H17	
		使用量	大気排出量	使用量	大気排出量	使用量	大気排出量
1. PRTR-整理No. 145 ジクロロメタン							
2. PRTR-整理No. 211 トリクロロエチレン							
3. PRTR-整理No. 200 テトラクロロエチレン							

2. 有機塩素系溶剤の抑制計画

自主管理対象物質	全廃する(時期:年月)	削減する(▲%/年) (具体的な方策)	対応しない、出来ない(理由)
1. PRTR-整理No. 145 ジクロロメタン			
2. PRTR-整理No. 211 トリクロロエチレン			
3. PRTR-整理No. 200 テトラクロロエチレン			

3. 排出抑制活動の概要を御記入下さい。主たる事例と濃度測定値をP.2及びP.3 帳票に御紹介下さい。

4. JAPIAに対する要望等がございましたら記入下さい。

御協力ありがとうございました。

「業会自主調査」

洗浄工程

有害大気汚染物質転換事例回答用紙

貴社名： _____

有害大気汚染物質：洗浄工程で使用する有機塩素系化合物を対象とする。
 (ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)

比較項目		転換前	転換後 (代替・抑制)
洗浄剤		ジクロロメタン トリクロロエチレン テトラクロロエチレン	代替化学物質 製品名称： 型番： 製造メーカー名：
洗浄剤使用量 ト/年			
被洗浄物	名称		
	材質		
	形状		
洗浄仕様	洗浄前汚れ		
	洗浄後清浄度		
洗浄方式			
乾燥方式			
経済評価	イニシャルコスト		
	ランニングコスト		

洗浄装置概要

転換前後での濃度測定値を記載願います。(改正案では排出口濃度の排出基準制定が検討されています。)

排出口濃度の分布状況： _____

敷地境界線濃度の分布状況： _____

参考

社)日本自動車部品工業会はオゾン層保護活動の一貫として H3年より JICOPの洗淨専門委員会 自動車関連小委員会へ委員を派遣し各種の洗淨に関する資料を編集した。

オゾン層保護活動の主たる対象は洗淨用フロンと1,1,1-トリクロロエタンであったが1,1,1-トリクロロエタンは有機塩素系洗淨剤であり、洗淨技術や抑制技術も流用できるため「有害大気汚染物質の自主管理活動」の初期においては大変参考となった。

H5 「1,1,1-トリクロロエタン削減マニュアル」

「1,1,1-トリクロロエタン代替品及び代替技術に関する調査研究報告書」

H7 「脱エタン現場指導マニュアル」

「脱エタンのための現場用マニュアル」